

～「一人のためにやる」を心に決めて～

ふれあい健康まつりでケアカフェ（支援者のつどい）を行いました



病棟で取り組まれている夕焼けサロンについて、ポスターを使ってプレゼンテーション中。

5/26、汐田総合病院のふれあい健康まつりにて「ケアカフェ」を開きました。ケアカフェでは、認知症などの当事者の方たちへのサポートやカフェを開いている地域の支援者に集まっていただき、取り組みの紹介や情報交換を行いました。川のまちエリア（矢向・鶴見市場各ケアプラザエリア）を中心に、10グループ14名の地域の方の参加があり、職員が入れ替わりながら10数名入り、お茶を飲みながら和やかに話し合いました。印象的だった事の一つは「一人のためにやる」「参加者が少なくても続けることが大事」というお話でした。認知症カフェはあちこちで開催されるようになってきましたが「一人のためにやる」事を心に決めて取り組んでおられることを実感しました。またご家族を看取られた後の介護者へのグリーンケアや、若年層の介護者へのフォローなどにもその思いは広がり、次の取り組みに繋がっていました。「こども食堂」をはじめられた体験談や、経済的理由から成人式に振袖を着られない若者に「来年は5人に振袖を着せる」と、振袖の用意やカンパ活動をされているお話などに感銘を受けました。



認知症を通してそれだけにとどまらず、そこから見えてくる地域の生活問題、そこで暮らす一人ひとりの思いをくみ取り支援する大切さを実感するとともに、進みつつある格差社会、無縁社会に対し、枠組みにとらわれず対峙している地域のみなさんの実践にとても勇気をいただきました。支援者同士の情報共有や連携の場としても、今回の「ケアカフェ」は有意義であったと感じ、またこういった機会を作っていきたいと考えています。



うしおだグループと市民の健康サポート教室
骨粗しょう症対策と体操教室を行いました

今回の健サポは、「知っててよかった骨粗しょう症対策」をテーマに、2019年6月24日、ココファン横浜鶴見で開催しました。雨天にもかかわらず、約100人の方にご参加いただきました。汐田総合病院整形外科部長の佐々木正三医師が講師で、そもそもの骨の強度など基礎の情報から、骨粗しょう症とその合併症である骨折という定義や診断・治療、エビデンスに基づく“奇跡の”骨量回復の方法まで、総合的にわかりやすくお話しがありました。予防・対策のためには、①運動、②食事、③日光浴ということです。また、放射線技師による骨密度測定の方法と重要性×「骨粗鬆症に負けない！！からだを丈夫にする体操」のデモも行われ、参加者の皆さんも一緒に身体を動かし、背筋ピンと伸ばしていただきました。

次回は「知っててよかった心のケア」

講師：うしおだ診療所 所長・野末浩之 医師

2019年10月31日（木）午後3時～予定です



メモリーカフェ



認知症にまつわる悩み、専門スタッフに相談できます

・汐田総合病院 会場：ラウンジびゅあ（病院2階）

7月11日（木） 9月12日（木） 14:00-16:00

・うしおだ診療所 会場：友の会汐田・向井町支部事務所

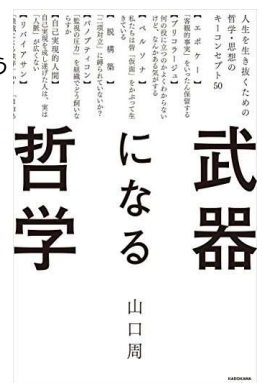
7月11日（木） 9月12日（木） 13:30-15:30



武器になる哲学—人生を生き抜くための
哲学・思想のキーコンセプト50



全日本民医連43回運動方針の「哲学や経済学など初歩的な社会科学の学習を(中略)重視しましょう。」という提起を受け、あまり難しくない哲学関連の本を探していた時に、書店で平積みされているのを発見！サルトルのアンガージュマン、ソクラテスの無知の知、マズローの自己実現的人間など、哲学や思想のキホンの「キ」についてわかりやすく書かれており、哲学が身近に感じられる一冊でした。



KADOKAWA/
山口周【著】



スタッフひとこと

毎年、新学期をむかえると子供の教科書に一通り目を通してあります。理科の教科書には、スマホのタッチパネルの仕組みが載っていたり、技術科の教科書には情報通信ネットワークの仕組みが載っていたりと時代の変化を感じる一方、国語の教科書には、自分が学んだのと同じ文章や物語が載っていて、懐かしくなりました。孫の時代の教科書には、AIやVRの仕組みが載るのかな？なんて想像すると楽しくなります。N.M



うしおだ総合ケアセンター

We aim to build a non-discriminatory Integrated Community Care System that supports all